



埋文だより

第73号

平成29年 6月30日発行

国内3例目



のみ 青銅製鑿を発見



牧山遺跡は、鹿屋市串良町細山田に所在します。平成25年度から（公財）埋蔵文化財調査センターが発掘調査を行っており、これまでに弥生時代、縄文時代晩期、縄文時代後期、縄文時代早期、旧石器時代の遺構や遺物が多数発見されています。

その中でも、弥生時代（約2,000年前）の竪穴住居跡から県内初、国内でも3例目となる青銅製の鑿が発見されました。長さ4.4cm、幅0.8cm、最大厚0.7cm、重さ10gの棒状で、全体が研磨され一方の端に刃部が作り出されています。また、側面には鑄型の合わせ目の痕跡もあり、ほかの青銅器を再加工したのではなく、当初から鑿として作られたものと考えられています。県内で弥生時代の青銅器の工具が確認された初めての事例となりました。

牧山遺跡は、このほかにもたくさんの土器とともに弥生時代の石庖丁（植物の穂摘具）や縄文時代の垂飾品（首飾り、腕輪など）、縄文時代早期後半（約8,000年前）の「トロトロ石器（異形石器）」が発見されており、今後の研究に新たな資料を追加することになると期待されます。

目次

- ・国内3例目の青銅製鑿を発見…………… 1
- ・発見！発掘速報…………… 2・3
- ・上野原遺跡今昔ほか…………… 4
- ・遺跡公開 現地説明会開催ほか…………… 5
- ・平成29年度発掘調査予定遺跡…………… 6

発見！ 発掘速報

昨年度、発掘調査が行われた、県立埋蔵文化財センターと（公財）埋蔵文化財調査センターの発掘調査成果の一部を紹介します。

…県立埋蔵文化財センターの発掘調査
…（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センターの発掘調査

石器の見本市

～宮脇遺跡（大崎町）～



志布志湾を望む遺跡全景（空撮）

曾於郡大崎町に所在する宮脇遺跡では、縄文時代草創期と旧石器時代の遺構・遺物が発見されています。

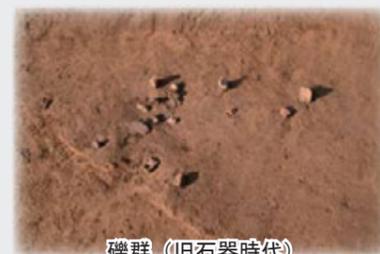
縄文時代草創期では、石器集積遺構1基が発見されています。これは、7個の石で構成されるもので、石はいずれも礫石器（磨石・敲石・棒状礫等）でした。遺構内と周辺からは炭化物や



石器集積遺構

焼けた痕跡が確認されなかったことから、石器や石器素材をまとめた跡の可能性がります。

旧石器時代では、礫群1基と細石核・細石刃・ナイフ形石器・三稜尖頭器・台形石器・スクレイパー、磨石・石皿等が発見されました。石器石材の多くは黒曜石と砂岩で、特に黒曜石はほとんどが地元産（県内北部もしくは鹿児島湾周辺産）でした。



礫群（旧石器時代）



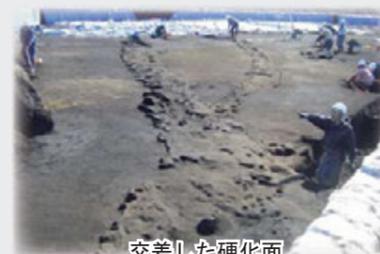
ナイフ形石器出土状況



出土した各種石器

中世の交差点？

～安良遺跡（志布志市）～



交差した硬化面

安良遺跡は、安楽川左岸の河岸段丘上に立地しており、縄文時代から中世までの遺構・遺物が発見されました。

発見された土師器や陶磁器の多くは中世（12世紀～14世紀ごろ）のものと考えられます。この時期の建物跡と考えられる柱穴や溝跡、硬くしまった帯状の地面（硬化面）も見つかりました。中でも2つの硬化面は、上下に交差することから複数の時期にわたって使われた道跡だと考えられます。



捨てられた大量の土器

また、古墳時代の2つの溝跡から大量の土器が、捨てられた状態で出てきました。



調査中の溝跡

コの字状の石罫発見！

～虎居城跡（さつま町）～



虎居城はさつま町宮之城に所在し、城の周りを囲むように流れる川内川を天然の濠として利用した山城です。城の形が、虎に見えることから虎居城と呼ばれています。

発掘調査の結果、虎居城の本丸と想定されている「松社城」の中心に、コの字状の石罫があることが明らかになりました。石罫とは、石を積み上げて造った土手のことです。虎居城の石罫は、土で造った土手の表面に石を貼り付けていました。本来、敵から守るために造られる土罫や石罫ですが、虎居城の石罫は高さも低く、別の目的で造られた可能性があります。松社城からは、庭石と考えられる大きな石（幅が畳一枚分ぐらいの大きさ）も見つかっています。もしかしたら、庭園があったのかもしれない。



石罫



庭石と考えられる大きな石

長く続いた人々の暮らし

～山ノ上B遺跡（鹿屋市）～



国道220号古江バイパス建設に伴う発掘調査を行っている



住居跡と成川式土器（白丸内）

山ノ上B遺跡は、鹿屋市小野原町に所在し、遺跡のすぐ東側に鹿屋体育大学があります。遺跡内は傾斜がきつい場所や杉などの樹木が多く、その伐採や抜根作業のため鋸や剪定ばさみ、チェーンソーを併用しての調査となり、多くの時間と労力を要しました。

調査の結果、古墳時代の堅穴住居跡1基を発見し、その中に完形に近い成川式土器の鉢が2個入っていました。縄文時代は、道跡と考えられる硬化面1条と集石21基を発見するとともに、石坂式土器や押型文土器、塞ノ神式土器、黒曜石の石匙・フレークが見つかりました。なかでも、縄文時代早期中葉（約9,000年前）の石坂式土器の占める割合が大きくなっています。旧石器時代では、礫群1基と握るとちょうど手になじむサイズのハンマーストーン、水晶（母岩・フレーク）などが見つかりました。



集石の検出状況

お墓の中は赤かった

～町田堀遺跡（鹿屋市）～



町田堀遺跡は鹿屋市串良町細山田に所在し、笠野原台地の北東端に位置しています。標高は約90mで、蛇行する串良川が北側と東側を流れています。

昨年度の調査では、幅約3m、長さ約30mのせまい範囲から、縄文時代後期の住居跡、古墳時代の溝跡・地下式横穴墓など数多くの遺構や遺物が発見されました。



道路脇から発見された住居跡

なかでも、地下式横穴墓は、死者を安置したと思われる部屋の壁や床が赤く着色されており、遺体に供えられていたと考えられる刀子も発見されました。先人の死者を弔う気持ちが感じられる遺跡でした。



地下式横穴墓

文字の意味するものは…

～里町遺跡(伊佐市)～



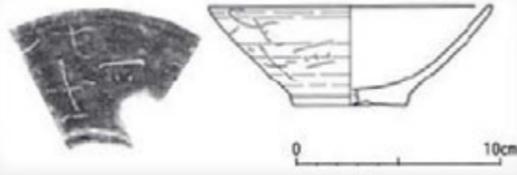
溝状遺構(左)と大型土坑(右)

国道 267 号線道路改築事業に伴い、平成 26 年度に発掘調査が行われた伊佐市の里町遺跡の報告書が、昨年度刊行されました。

その整理作業の中で、9 世紀後半のものと考えられる刻書のある陶磁器 1 点が見つかりました。

これは、中国の浙江省周辺の窯で作られたものと同じ系列の青磁碗で、表面は茶黄色、器の底を一段高くする高台は蛇の目高台と言われるものになっています。外側に刻まれた文字は 2 段あり、「七月」と「●時カ」※と読めます。

この文字が何を意味しているのか興味が湧いてきます。



※●は判読できなかった文字を示す

上野原遺跡今昔

① 集落が営まれた時代

～縄文時代早期前葉(約 9,500 年前)～

上野原台地の北東側に位置する地点は、「南九州地域における定住化初期の様相を典型的に示す大集落で、日本列島の縄文時代の開始期を知る重要な遺跡」として、平成 11 (1999) 年 1 月 14 日に国の史跡に指定されました。

縄文時代早期前葉(約 9,500 年前)の上野原遺跡は、貝殻文をもつ円筒形や角筒形の土器を使った人々が生活した遺跡です。この時代の遺跡は、10 軒の竪穴住居跡が見つければ大遺跡と言われるところですが、上野原遺跡では 52 軒もの竪穴住居跡が見つかりました(ただし、同時に存在したのは 10 軒程度と考えられています)。

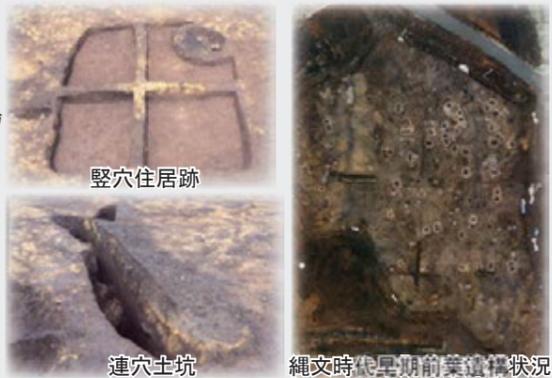
また、2 条の道跡、調理施設である 39 基の集石遺構や 16 基の連穴土坑、それに約 270 基の土坑が集落を構成していたことがわかりました。

さらに、竪穴住居跡や連穴土坑が廃棄されて自然に埋まってく途中で、桜島の噴出物である P13 とよばれる火山灰が堆積しており、この P13 火山灰を年代測定した結果、約 9,500 年前という年代が得られたことから、それよりも古い集落跡であることが判明しました。

現在、鹿児島県内では、上野原遺跡のように定住化初期の様相を示す遺跡として加栗山遺跡、前原遺跡(ともに鹿児島市)、建昌城跡(始良市)、定塚遺跡(曾於市)などが見つっています。

これらの遺跡の発見により、南九州地域が、他県に比べていち早く定住化していたことが再確認されました。(表 1 参照)

上野原遺跡は、今なお縄文時代早期前葉における国内最古・最大級である大規模集落跡の代表的存在であることに変わりはありません。



竪穴住居跡

連穴土坑

縄文時代早期前葉遺構状況

表 1 縄文時代早期前葉(約 9,500 年前)の竪穴住居跡が見ついている遺跡

| 遺跡名 | 市町村名 | 遺跡名 | 出土品 | 報告書・発行年度 |
|---------|------|-------|---------|----------|
| 1 加栗山 | 鹿児島 | 竪穴住居跡 | 16 遺 16 | 1981 |
| 2 宮田B | 志布志 | 竪穴住居跡 | 4 志布志7 | 1984 |
| 3 宮田土光 | 志布志 | 竪穴住居跡 | 2 志布志21 | 1991 |
| 4 地蔵堂 | 曾於 | 竪穴住居跡 | 1 未定14 | 1994 |
| 5 丸田A | 志布志 | 竪穴住居跡 | 1 志布志25 | 1996 |
| 6 橋ノ原 | 南さつま | 竪穴住居跡 | 1 加世田15 | 1998 |
| 7 鹿爪野 | 南九州市 | 竪穴住居跡 | 8 川辺6 | 1998 |
| 8 大中原 | 南大隅 | 竪穴住居跡 | 4 櫻59 | 2000 |
| 9 上野原 | 霧島 | 竪穴住居跡 | 52 せ28 | 2001 |
| 10 岡本 | 曾於 | 竪穴住居跡 | 4 せ75 | 2004 |
| 11 藤原 | 鹿児島 | 竪穴住居跡 | 2 藤原11 | 2005 |
| 12 長塚ヶ原 | 志布志 | 竪穴住居跡 | 2 志布志35 | 2005 |
| 13 水迫平 | 日高 | 竪穴住居跡 | 9 せ93 | 2005 |
| 14 建昌城跡 | 始良 | 竪穴住居跡 | 67 始良10 | 2005 |
| 15 前原 | 鹿児島 | 竪穴住居跡 | 25 せ107 | 2007 |
| 16 定塚 | 曾於 | 竪穴住居跡 | 97 せ153 | 2010 |
| 17 鎌山 | 曾於 | 竪穴住居跡 | 4 せ152 | 2010 |
| 18 平島上C | 大崎町 | 竪穴住居跡 | 6 せ11 | 2017 |



上野原遺跡出土の土器(円筒形、角筒形、レモン形)

遺跡公開! 現地説明会開催

中津野遺跡

国道 270 号(宮崎バイパス)改築工事に伴い、県立埋蔵文化財センターが発掘調査を行っている南さつま市の中津野遺跡で 2 月 4 日(土)に現地説明会が開催されました。当日は、時折晴れ間ものぞく曇り空で風もなく過ごしやすーい一日となり、

約 350 名の見学者が訪れ、水が湧く湿地での発掘風景や出土した土器、土木遺構(杭列)などの説明に耳を傾けたり、火おこしや土器洗いの体験を行いました。



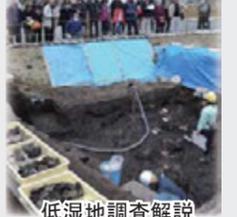
土木遺構の杭



低湿地調査風景



低地・台地部調査解説



低湿地調査解説

昭和 25 (1950) 年、今回の説明会場から約 500m 東側の畑地(標高約 30m)から、竪穴住居状の遺構が発見されました。その遺構の中からは、ほぼ完全な形の土器(壺・甕)が多数見つかりました。これらの土器は、その形状が弥生時代から古墳時代への転換期(約 1,750 年前)に位置づけられるとされ、発見地名をとって「中津野式土器」と命名されました。このような遺跡を『標式遺跡』とよびますが、このことから、中津野遺跡は考古学史に残る記念碑的な遺跡の一つと言えます。

南北約 900m におよぶ調査区の地形は、大まかに北側の低湿地部、中央の低地部、南側の台地部に分かれています。遺跡周辺の平野一帯には、古くから内海や湿地帯が広がり、細長い丘陵や台地が遠浅の入り江に突き出るように形成されていたようです。こうした土地は水・食料を得やすく生活に適していたため、中津野遺跡の周辺でも貝塚や集落などの遺跡が数多く見つかっています。

これまでの調査で、低地部と低湿地部の境界では縄文時代後期(約 4,000 年前)の土器が集中して出土しています。土壌には植物の茎や葉が多量に含まれており、当時の周辺環境が葦などの植物が群生する湿地帯であったことが想定されます。

また、低湿地部からは弥生時代末から古墳時代初め頃の農具類(鍬、鋤)や近世(約 400 ~ 150 年前)の土木遺構など、木製品が多く出土しています。土木遺構は、地盤の弱い低湿地に堤防もしくは道路を構築するための基礎部分と考えられ、軟弱な地盤に木杭を無数に打ち込み、その上に木の枝の束(粗朶)や丸太などの木材を敷き補強しています。杭は長いもので約 2m 以上もあり、湿地帯での作業の困難さが伝わります。



土器洗い体験



火おこし体験



中津野式土器



木製品(保存処理済)



出土品展示室

Information

インフォメーション

県立埋蔵文化財センターでは、平成 29 年 10 月 14 日(土)に「上野原フォーラム 2017」を霧島市で開催します。縄文の森開園 15 周年を記念したイベントで、これまでの発掘調査の成果などを紹介する予定ですので、多数のご参加をお待ちしております。詳細につきましては、後日、県立埋蔵文化財センターのホームページに掲載します。

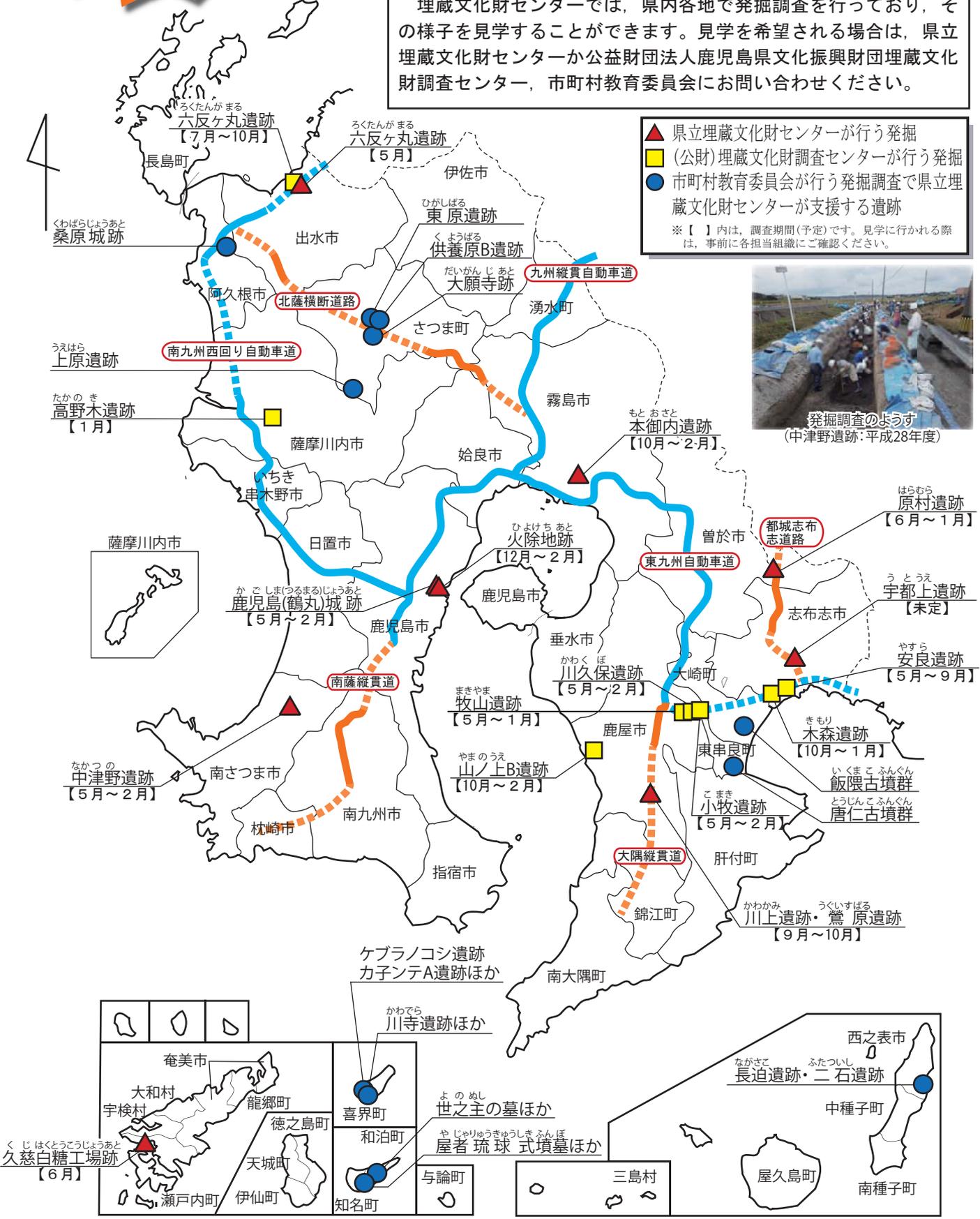


見学してみない?
発掘現場

平成29年度 発掘調査予定遺跡

埋蔵文化財センターでは、県内各地で発掘調査を行っており、その様子を見学することができます。見学を希望される場合は、県立埋蔵文化財センターか公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター、市町村教育委員会にお問い合わせください。

- ▲ 県立埋蔵文化財センターが行う発掘
 - (公財)埋蔵文化財調査センターが行う発掘
 - 市町村教育委員会が行う発掘調査で県立埋蔵文化財センターが支援する遺跡
- ※【 】内は、調査期間(予定)です。見学に行かれる際は、事前に各担当組織にご確認ください。



当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県 (<http://www.pref.kagoshima.jp/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp>) からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森 検索

埋文だより 第73号

発行日 平成29年6月30日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp